令和6年度　西東京市立東伏見小学校　学校評価報告書

学校教育目標　互いの人格を尊重し、自主・自立の精神と豊かな人間性を培い、知・徳・体の調和をとりながら生涯にわたって自己実現を目指す自立した児童の育成を図る。
○心もからだも健康な子ども　○よく考え実行する子ども（重点目標）　○なかよくはげましあう子ども

目指す学校像（ビジョン）　「一人一人のよさが生き、共に学び高め合っていく学校」
【目指す学校像】　○児童が安心して伸び伸びと自分の力を発揮できる学校 ○かかわりを大切に「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体」をはぐくむ学校
○一人一人を大切にし、個々の課題解決を支援する学校（特別支援教育の充実）○保護者・地域と手を取り合い、安全安心な環境を創り出す学校
【目指す児童・生徒像】　○「ふれあい」「しんせつ」「みとめあい」を大切にする児童 ○「なりたい自分」の実現に向け、主体的に学び、元気に遊び、夢をもつ児童 ○学校や地域のよさに気付き、感謝と誇りをもって共に歩む児童
【目指す教師像】　○魅力ある授業・夢中になれる授業を創る教師 ○常に児童の心に寄り添い、児童のよさや不安に気付く眼をもち、褒めて伸ばし、みんなで守る、温かい教師 ○学校経営方針を理解し、その実現に向けてPDCAサイクルを活性化させ、チャレンジし続ける教師

前年度までの学校経営上の成果と課題
○西東京GIGAスクール構想のもと、ICTを活用し個別最適化された授業や児童の情報活用能力を育成する授業の実践に全校で取り組むことができた。
○特別支援教室との連携を強めた校内委員会を定期的に開催することで、個に応じた児童への対応や指導に組織的に取り組み、充実した指導を行うことができた。
○地域教材である「下野谷遺跡」を活用し、各学年の発達段階に応じた指導計画を立て、授業実践をすることができた。
△主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりと、探究的な学習活動の実践、環境教育の充実が課題である。

	具体的方策	第1回評価	課題と対策	第2回評価	学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
確かな学力の育成	・情報活用能力育成の課題である個別最適な学びの授業 ・「思考過程プレート」「学習スタンダード」の活用 ・「東京ベーシックドリル」「くじらタイム」の活用 ・週末への�mマークの位置付け	4	・個別最適な学びと協働的な学び（について課題があったため、研究主題に位置付け、校内研究に取り組んだ。 ・各学年のタブレットの技能について、指標や年間計画を作成し、タブレットの技能習得を図っていく。 ・基礎的基本的な学力を定着していくため、朝の時間は水曜ベーシック（紙、タブレットどちらでもよい）、金曜朝読書を徹底していく。	4	地域の特徴を生かした学習を今後も深めていってほしい。地域にはまだまだ豊富な教材がある。	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、講師を招聘した研究授業を年3回実施し、研究を深めた。今年度の研究成果を来年度に生かしていく。 ・ベーシックドリルを水曜日の朝学習で取り組んだり、くじらタイムで学習の補充を行ったりして、効果的である。継続する。 ・算数の習熟度別ガイドラインを徹底する。
	・魅力ある授業、夢中になれる授業の実現と相互授業参観 ・授業力向上に向けたOJTの充実 ・ふるさと探究学習の推進と伴走者としての学習支援の充実 ・朝読書、読み聞かせ、ブックトークの計画的実施 ・家庭と連携した家庭学習習慣の確立	4	・総合だけでなく、社会科や生活科でもふるさと探究学習の視点で計画を立てる。 ・チャレンジ家庭学習の徹底を通じて、引き続き家庭学習習慣化を図っていく。	4		・ふるさと探究学習について、全学年で下野谷遺跡に関わる学習をするとともに、新たに2年生の野菜づくり、3年生の石神井川の学習、4年生の藍染め学習で地域の方と交流する活動に取り組んだ。来年度、更に特色ある教育担当の教員が下野谷学習の進行管理を積極的に行えるようにする。 ・家庭学習について、チャレンジ家庭学習を引き続き継続していくとともに、重点的に取り組む事項を確認する。
豊かな心の育成	・なかよし活動や挨拶の啓発活動を通じた、かかわる活動の充実 ・毎週の「特別の教科　道徳」授業の充実 ・ふれあい月間での心を育てる取組と児童会のいじめ防止啓発活動の実施・充実	4	・挨拶の充実を図るため、代表委員会や地域の皆さんの挨拶運動を推進していく。 ・道徳授業地区公開講座で、道徳の授業の意味について参加した皆さんと共有を図っていく。 ・いじめ防止に向けて、子ども一人一人の心を耕す取組を進める。	4	友達関係の悩みや、勉強で困っていることなど、先生に言いたくても自分からは言えない子もいると思う。子どもが困っていることについて話しやすい雰囲気づくりをお願いしたい。	・挨拶指導について、引き続き継続していく。 ・道徳の授業について、プリント類の返却を含め、授業での取組を保護者へ伝える方法を考え、共通理解を図る。 ・いじめ防止に向けて、代表委員会主催の標語づくりを行うなどして、子ども一人一人の意識高揚に努めた。
	・子ども・保護者から信頼される、人権尊重を基盤とした「西東京あったか先生」の充実 ・特別支援教室教員を校内委員会等に活用し、個の課題に応じた指導・支援の充実 ・児童の実態に応じた特別支援委員会の運営と指導の充実	4	・そよかぜ指導教室、スクールカウンセラーの活用、いじめ対策委員会の充実を通じて、連携を取って進めていく。 ・「人権の花」運動を活用し、人権意識の高揚を広げていく。 ・特別支援教室の指導について、情報共有を図る必要がある。	4		・いじめ防止啓発活動の充実について、保護者アンケートでの「わからない」の回答が多かったため、具体的な取組を紹介していくようにする。 ・個に応じた指導の充実について、そよかぜの教員からOJT研修を通じて情報共有があったが、引き続き交流を深めていく。
健康と体力の育成	・サニーマンデーやロング昼休みを活用し、すすんでかかわり運動する児童の育成 ・体力調査の課題克服を通じた体力向上の継続実施	4	・体力テストの分析結果を行い、効果的な運動の提案を行うことで、体育の授業を充実させ体力の向上を進める必要がある。 ・子どもたちは休み時間によく遊んでおり、引き続き推奨していく。	4	子どもがよく外で遊んでいる。豊かな自然に触れ合うことも、とても大切な経験となっている。	・引き続きサニーマンデーやロング昼休みを充実させる。体力テストの結果を受けて、課題を分析し、各学級で体育の授業の導入に体力向上に向けた活動を位置付ける取組を徹底する。 ・サニーマンデーやロング昼休みを充実させるために、外で遊ぶよう積極的に声掛けをしたり、遊具（フリスビー、フラフープ、砂場で遊ぶ道具など）の充実を図る。
	・年3回の一校一取組運動の充実 ・給食放送や食育集会の実施、「給食だより」の工夫、食育事業での職への意識の高揚	3	・食育への意識を高めるため、食育集会を継続的に実施する。 ・休み時間の外遊びの推奨を継続的に呼びかける。	3		・一校一取組運動（短縄、長縄、マラソン）旬間の時には、体育の授業でその内容を取り入れ、体力の向上に向けて、継続して取り組む。 ・毎月1回以上、食育指導を実施したり、地元野菜を給食の食材に取り入れたりして、食育環境の充実を図った活動を継続して取り組む。
地域に開く学校	・下野谷遺跡を活用した「ふるさと」意識、郷土の戦争遺産を基盤とした平和意識の醸成 ・年5回の学校運営協議会を通じたコミュニティ・スクールの推進 ・各種防災訓練（避難所設営・災害体験等）実施による地域防災意識の啓発 ・PTA、おやじくらぶの食等運協団体との連携による教育活動の実施	4	・下野谷遺跡について計画通りに実施する。 ・地域学校協働活動の方にご協力いただき、畑作業のお手伝いなど開わっていただいている。 ・戦争遺産について、昨年度実施した平和学習を今年度も社会や総合で扱う。	4	P保連で、「すぐーる」の利用について、学校以外の情報を全校向けに流していることがないようにした方がよい、という意見があった。	・地域コーディネーターを通して、地域の方と関わる機会が増えた。全ての学年が地域の人材・教材と関われるように、特色ある教育担当中心に活動の充実を進める。 ・地域学校協働活動の方に今後もご協力いただけるよう連携を図る。 ・12月に地域の戦争と関連性のある劇「バンブキン」を高学年が視聴し、平和の重要性などについて考える機会をつくることができた。今後も継続して実施していく。
	・学校ホームページの毎日更新 ・すぐーるを活用した緊やかな情報発信 ・児童、保護者、地域のアンケートを実施し、短いスパンでのPDCAサイクルの活性化	4	・「すぐめーる」から「すぐーる」にアプリが変更され、更に活用を図っていく必要がある。 ・学校ホームページを活用して、教育活動に関わる情報を発信して、開かれた学校づくりを進める必要がある。	4		・学校メール「すぐーる」が導入され、全体に一斉配信したり、個別に保護者と連絡を取ったりして効果的に活用している。 ・学校ホームページなどで、学校の様子を積極的に発信している。
業務改善を通じた学校力の強化	・企画会議の充実による職員会議の短縮 ・月毎の勤務時間の見える化による業務の見直し活動 ・校務支援システムの活用による情報共有と業務の効率化	2	・「働きやすさ」を推進するため、大事な報告や変更点などは、校務支援システムの「お知らせ」機能を活用する。 ・2学期の通知表を面談とし、顔の見える関係づくりの推進と業務量の削減を図る。 ・時間の有効な活用に向けて、起案の仕方や会議の在り方を工夫する。	2	教職員の評価が一番低い結果となっていることから、業務改善にはさらに力を入れてほしい。	・基本的に業務量が多いこと、業務に偏りがあることが課題である。会議をスリム化した関係で情報共有されにくい場面もあった。情報共有の仕方について、更に工夫を図る。 ・2学期の通知表が面談に置き換わり、業務量が大きく減った。引き続き、次年度も実施する。 ・「教育計画」のデータ化はよいが、データだけでなく冊子を一部作成することで、情報共有を進める。
	・あったか先生推進教師等による月1回の研修とチェックシートの実施 ・定期的に職員ず会時に服務事故防止研修を実施 ・机フラット化を中心とした職場環境の改善	3	・朝会や集会の開始時刻が遅れ、1時間目の授業開始時刻に間に合わないことがあるので、8時25分に校庭または体育館に出発できるよう準備を進める。 ・休憩時間（15時45分～16時30分）に会議室を開放し、教職員同士が気軽に話すことができる「あたカフェ」（仮称）を開設する。	3		・「あったか先生」の一層の活用を進めるため、その意図や「指導をしないわけではない」などと、保護者に丁寧に説明をする。 ・毎月の「西東京あったか先生」チェックシートを使った研修等を引き続き行っていく。